

和東町第5次総合計画策定に係る団体ヒアリングの概括

- 開催日時 : 令和2年12月3日・4日
開催場所 : 和東町社会福祉センター2階 大ホール
参加団体 : (出席順)
参加団体 : 和東小学校PTA
ほっこりサークル
社会福祉法人和東町社会福祉協議会
和東町雇用促進協議会
特定非営利法人和東ティー・フレンズ
和東町商工会
特定非営利法人わづか有機栽培茶業研究会
恋茶グループ

(※) 和東保育園保護者会は、ヒアリングシートの回答有

各団体のヒアリングシートの回答 : 別紙参照

1 団体名	2 団体の概要	3 団体の活動内容
4 活動の振り返りと今後	5 町の良いところ	6 町の取組への希望
7 町の気になるところ	8 課題解決へ向けた取組み	9 その他

<ヒアリング結果の要旨>

- 広域的に捉えると、近畿圏の中心地にあり周辺に大きな大都市がある。その中にあって、茶畑を含めて“すてきななか”の環境を有していることが特徴である。
- “お茶のまち”として和東町はあるが、今後の地域産業としては「お茶+α」の複合的展開を考えるべきである。
- 教育観光やインバウンドで着実に実績を上げつつあり、この流れをまちづくりの活性化にいかに関わり付けていくかがポイントとなる。
- 令和5年度に犬打峠のトンネルが開通するが、そのインパクトをプラスにするかマイナスにするかは、今後のまちづくりを大きくかかわってくる。
- プラスにするためには、“和東の強み”を最大限に生かし、「訪れてみたくなるまち」「住んでみたいまち」と思われる魅力的なまちづくりに取組む必要がある。
- 和東町には人材(プレイヤー)はたくさんいるし、様々な団体が各種活動を展開している。しかしながら、まだ、バラバラの展開であり、小さな力を一つにまとめ大きな力にする仕組みづくりが弱い。
- 今後は、犬打峠トンネル開通後、また、アフターコロナの時代状況を見据えたまちづくりのビジョンを明確にし、小さな力をまとめて大きな“和東の力”にする官民連携の仕組みづくりによるまちづくりが必要である。

1. 和束町の良いところ

<まち全体について>

- ・近畿の中心に位置し、大都会に近い田舎
- ・茶畑景観の美しさ
- ・豊かな森林や清流
- ・観光案内所では海外にも町の魅力の発信を行っている
- ・年々、外国人も含めた観光客が増えている
- ・5～7月の茶の時期はまち全体に活気がある
- ・UIターン者を含め、まちづくりに関する優れた人材（プレイヤー）が多い
- ・町域は広くても、お互い顔が見える関係にある
- ・犬打峠トンネルの開通により、交通アクセスが大幅に解消される
- ・人口が急速に増えている横に和束町があることを意識すべき

<産業面について>

- ・和束茶の特性
 - ①古くからの伝統ある茶業史を有している
 - ②生産性が高い（宇治茶の主産地・高価格・煎茶は質・量共に日本一）
 - ③高い生産技術を有している
 - ④茶を介した6次産業化への取組が行われている
- ・茶農家の一人一人の個性が強い
- ・観光は新たなビジネスとしての可能性を有している

<生活・福祉・その他について>

- ・子育てへの支援が全国と比べても非常に手厚い
- ・教育委員会が広域連合なので、広域（相楽全体）での取組み事業がある
- ・町内での商店数の減少を踏まえ、移動スーパーが始まり一定の効果をもたらしている

2. 和束町の問題点

<まち全体について>

- ・少子高齢化が顕著であり、確実に人口が減少している
- ・ボランティアや担い手が不足している
- ・犬打峠トンネルの開通は、さらなる人口流出の要因や、単なる通過地点にもなりかねない要因を含んでいる
- ・人口増加に必要な移住政策に対する制度設計ができていない
- ・頑張る人がいても、それを支援したりバックアップするより、足を引っ張る傾向がある

<産業面について>

- ・観光客は増えているが、町に経済効果をもたらす仕組みが弱い
- ・茶農家の高齢化・後継者不足に伴い、茶畑の荒廃化が進んでいる
- ・茶業の経営面積は増えているが、一方収入は減っているのではないかと

- ・農用地規制の問題があり、開発が難しくなっているので、土地利用のあり方を考えるべき
- ・お茶のまちなのに、それをアピールする「お茶の資料館」的な機能がない

＜生活・福祉・その他について＞

- ・買い物が不便である
- ・移動のための交通手段が弱い
- ・通学をサポートする保護者の負担は相当に大きなものとなっている
- ・ネット通販はかなり利用され一定の不便さの解消にはなるが、高齢者には対応が難しい
- ・空き家が増え、色々な面で危険である
- ・住民が行っている「通学点検」の調査がどのように活用されているか不明である。
- ・子供たちが安心して遊べる公園が無い
- ・町内にロードバイクがかなり入り込んでおり、歩行者にとって危険な面もでてきている
- ・災害時の対応が不安である
- ・各種団体活動が個々の努力で実施されているが、時間とともに後継者問題がでてきている

3. 今後のまちづくりに向けて

＜まち全体について＞

- ・アフター・コロナの時代に向けたビジョンや施策展開が必要である
- ・人口増加に必要な移住政策に対する制度設計を明確にする必要がある（例えば移住定住支援センター）
- ・まちづくりの明確なKPI（成果目標）を持つべきである
- ・各種イベント等の取組で、町内にある団体や人材等に積極的に参加を呼びかけ、町民が有している各種スキルやパワーを活用すべきである
- ・行政と住民との協働体制をもっと進めるべきである
- ・協働のまちづくりを推進するうえでも、町で取組んでいることを町民にもっとアピール（広報）することが大切
- ・人が定住するには「仕事」、「買い物」、「集まる場や機会」が大事になる
- ・官民で構成された「和東町地域力推進協議会」が組織されており、このような組織が中心になって“地域ぐるみ”での取組みを行っていくべきである。

＜産業面について＞

- ・茶業だけに依存するのではなく、「茶＋観光」あるいは「茶＋α」のあり方を考えるべきである
- ・必ずしも専業にこだわらず、収入は兼業でも、色々な人が「住みやすいまち」と実感できることが大切である
- ・茶、観光等を含め、まち全体として6次化産業の展開を考えるべき
- ・犬打峠トンネル開通のインパクトを活かし企業誘致を積極的に進めるべきである
- ・官民連携による本格的な都市農村交流施設（ガーデンファーム構想）が必要である
- ・お茶の“健康に良いイメージ”を積極的に活用したプロジェクトの展開が必要である、（例えばウエルネスツーリズム、過疎地域型パークアイランド）
- ・各種事業の後継・育成・事業譲渡等について対応していく必要がある

＜生活・福祉・その他について＞

- ・高校も含めた通学に対して、無料のシャトルバスがあれば、定住性は高まるのではないかと

- ・ネット環境に対する子供の教育に力をいれてもらいたい